

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



[特集1] 島根大学の挑戦し続ける姿勢を発信

島根大学ロゴマーク リニューアル

vol. **54**
shimadai

2023.4

[特集2] 島根大学統合20周年を迎えて

次世代に向け、島根大学の挑戦し続ける姿勢を広く発信
島根大学ロゴマークリニューアル

島根大学 新ロゴマーク

ロゴマーク・コンセプト

- 島根の「し」がモチーフ
- 3本のラインは学生・教職員・ステークホルダーの協働
- さまざまな要素を「島根大学」が起点となり編み込む
- 青色と黄土色で、日本海・宍道湖、中国山地の大地の恵みと、歴史や文化、産業を表現



人とともに 地域とともに
島根大学
SHIMANE UNIVERSITY

歴代の校章・学章



国立大学法人島根大学は、2003年の旧島根大学と旧島根医科大学の統合後、今年10月で20周年を迎えます。今後、未来に向けて新たな価値創造に挑戦し続け、変革を遂げる姿勢を広く社会に発信するために、ロゴマークをリニューアルしました。

知の結びを社会に広げ
さらなる成長と発展を

今回の新ロゴマークは、昨年2月から全国より公募し、469点の応募がありました。同年4月に新ロゴマーク選考委員会の委員による第1次審査、7月に学生・教職員・島大会員による第2次審査(投票)を経て、9月に学内で最終決定されました。

新ロゴマークのデザインは、島根の「し」をモチーフに、3本のラインを学生・教職員・ステーク

これまでの伝統と歴史を胸に これからの未来へ

今年10月に旧島根大学と旧島根医科大学が統合して20周年を迎えます。これまでのロゴマークは、その統合時より使用して参りました。統合後には、医学部附属病院の再開発事業、人間科学部の設置、全ての大学院における組織整備等や、医学と理工農の融合的研究の推進など、それまでとは異なるステージの発展を遂げてきました。改めて統合20周年という記念の年に、これまでの確固たる伝統を受け継ぎ、新たな価値を創造・付加しながら島根大学のさらなる発展を象徴する新しいロゴマークを決定いたしました。島根大学と地域、あるいは各機関、個人

島根大学長 服部泰直
が、あらゆる場所やステージで繋がりが結ばれていくイメージの良いロゴマークと感じています。今後もステークホルダーの皆さまと共に未来を描き、今、すべきことを新ロゴマークのもとで全教職員・学生が一丸となって取り組み、「地域に活き、世界に輝くオンラインの大学」を実現していきます。



記者会見で新ロゴマークを発表する服部学長



会見後、松江キャンパス正門でロゴマーク入りクリアファイルを配布する学生

ホルダーの協働に見立て、人と自然、教育と研究、地域と世界など、さまざまな要素を「島根大学」が起点となって編み込んでいく様子を表現しています。縁結びの地に立地する総合大学として、「知の結び」を社会へ広げ、共に発展していく決意が込められています。

今年1月20日には新ロゴマーク発表記者会見を開き、デザインの発表、記者会見パネルの除幕、考案者である永田康二氏(大阪府在住、グラフィックデザイナー)のコメントやコンセプトなどの説明を行いました。4月1日より、新ロゴマークを公式行事、学位記、公文書、刊行物など、本学の諸活動に広く展開していきます。

vol.54 CONTENTS

【特集1】
島根大学ロゴマークリニューアル …… 01

【特集2】
統合20周年を迎えて …… 03

【特集3】
材料エネルギー学部誕生 …… 05

■留学生・留学体験紹介 …… 09

■島根大学の研究・地域貢献事業紹介

①法文学部 菊池 慶之 准教授 …… 11

②材料エネルギー学部 尾原 幸治 教授 …… 13

③附属生物資源教育研究センター 松本 真悟 教授 …… 15

■社会で活躍する卒業生 …… 17

■たたら通信 …… 19

■しまだい便り …… 21

■学生広報サポーター企画 …… 23

■サークル紹介 …… 24

■島根大学支援基金より …… 25

■読者プレゼント …… 25

表紙/新ロゴマーク入りのクリアファイルを配布する学生

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾

旧島根大学と旧島根医科大学の統合から20年 新「島根大学」の歩みを振り返る

column

統合当時を本田元学長が振り返る

統合準備にも携わり、新島根大学の初代学長を務めた本田雄一氏に、当時のお話を伺いました。

Q 統合の準備段階の様子は？

A 大学統合は小泉内閣の行財政改革の一環としての国立大学の組織改革に沿ったものでした。統合準備の大部分は前任学長であった吉川先生の時代に進められました。私はその当時は評議員だったので、「統合準備協議会」の一員として、統合協議に参加していました。統合後の大学名や学長の選出方法、教養教育課程の実施方法等、さまざまな議題についての論議が行われました。専門分野や創設から今日に至る歴史も異なる大学ですので、議論は長時間にわたることも多かったと記憶しています。

Q 当時、印象に残っているエピソードは？

A 新しい大学が発足することになりましたので、新しい学章、大学歌を作成したことです。

統合から一年が経過して、両大学が一つの新しい大学になったことを記念して植樹も行いました。

Q 今後の島根大学への期待は？

A 松江・出雲キャンパス間の距離は、日常的な交流には大きな障害となりません。しかし、それを乗り越えた連携、融合の実現を期待しています。医学領域を有する総合大学として、超高齢化社会となりつつある地域社会の要として、島根大学の存在はますます重要性を増しています。大学憲章が明らかにしている「地域に根差し、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」として、地域における役割・機能を十全に発揮していただきたいです。



本田 雄一
元島根大学長

2003年4月に島根大学長に就任。以降、同年10月の島根医科大学との統合、2004年4月の法人化を経て、2009年3月まで、6年間にわたって学長を務める。専門は植物病理学。

Pick up

大学統合によって実現した主なできごと

医理工農の連携による技術開発

本学医学部と総合理工学部の研究チーム（健康長寿社会を創出するための医工農連携プロジェクト・骨格系グループ）は、手術中に患者自身から取り

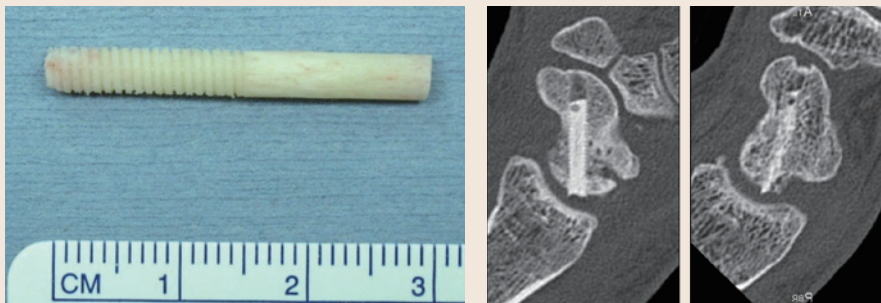


図1：骨ネジ

術直後 術後1年
図2：術後経過（単純CT）

出した骨を、手術室の中で独自開発した特殊な精密加工機を用いネジ形状へ切削加工（骨ネジ：図1）し、骨折部を固定するという新しい骨折治療技術を開発しました。

骨ネジは様々なサイズに作れるので、患者の状態に合わせたテーラーメイド治療が可能です。また骨ネジは周囲の骨と1年程度で完全に同化する（図2）ため、従来の金属ネジの様に骨折治療後にネジを除去する再手術が不要というメリットもあります。

このプロジェクトは県内外の精密加工機製造企業や島根県産業技術センターとの産官学連携事業を経て具現化し、2007年に初の臨床試験を実施しました。これまでに12症例を経験し、概ね良好な臨床成績を得ています。本学発の骨ネジ技術が世界中に広がり骨折治療に役立つことを目標に、プロジェクトは今も進行中です。

人間科学部設置

地域創生に向けた機能強化として、2017年4月に文理融合の「人間科学部」を設置しました。「からだ」「こころ」「つながり」という人間の3つの側面に焦点をあて、健康科学、心理学、社会福祉学という3つの学問分野を核として、人間存在に文理融合的にアプローチすることで、少子高齢化など

地域が抱える様々な課題に取り組みることができる人材を育成しています。



人間科学部での授業の様子

医学部附属病院の再開発

島根大学医学部附属病院は、1979年に島根医科大学医学部附属病院として開院しました。開院以来30年を経て、ハード・ソフト両面で医療をめぐる環境は大きく変化し、建物の老朽化をはじめ、患者さんのニーズに応じた満足度の高い医療、快適な療養環境を提供することに支障が生じていました。そのため、2008年～2013年にかけて、新病棟の建設、既存病棟及び外来・中央診療棟の改修を行い、病院機能の強化を図ったほか、教育・研究環境も整備しました。



現在の島根大学医学部附属病院

また、地域医療の拠点として、地域医療機関の連携強化も図り、大学病院を中心に、地域の医療機関全体で地域医療を担う体制づくりを進めています。

本年10月に、旧島根大学と旧島根医科大学が統合して20周年を迎えます。統合からこれまでの20年の歩みを振り返ります。

異分野の連携・融合によりさらなる成長・発展へ

2001年6月に文部科学省が経済財政諮問会議に提出した「大学（国立大学）の構造改革の方針」では、「①国立大学の再編・統合を大胆に進める。②国立大学に民間的発想の経営手法を導入する。③大学に第三者評価による競争的原理を導入する。」とあり、単科の医科大学と他大学との統合は避けられない状況にありました。

そのような状況の中、島根大学及び旧島根医科大学の両学長は、統合は研究基盤の強化、学際的分野の研究、法人化に向けて経営基盤の強化等のメリットが大きいとの判断から、統合の検討に着手することに合意し、2002年6月25日に統合合意書の調印に至りました。

2003年10月1日、旧島根大学と旧島根医科大学は統合し、5学部からなる総合大学として、新「島根大学」が発足しました。新島根大学の初代学長には、旧島根大学の本田雄一学長が就任し、新しい学章、学歌を作成しました。

本年は統合20周年を迎え、4月には島根大学ロゴマークのリニューアル、さらに工学系新学部「材料エネルギー学部」の設置と、節目の年になります。20年の歴史とともに、これからの島根大学のさらなる成長、発展を目指して、学生、教職員が一丸となって取り組んでいきます。

学部長
挨拶



材料エネルギー学部長
三原 毅

元・東北大学大学院工学研究科材料システム工学専攻教授。研究分野は超音波計測、材料加工、組織制御、材料評価。島根県出雲市出身。

この4月に発足する材料エネルギー学部で学部長を務めます、三原毅です。新学部は、島根県の産業振興をミッションに、島根大初の工学部として、県内製造業の40%を占める素材産業に的を絞り、カーボンニュートラル等のエネルギー問題を材料技術で解決する教育・研究を行う、ユニークな学部であると共に、新しい産業を島根から発信することを目指します。本学部の発足を契機に、島根県、県内企業、島根大学が同じ方向を向いて、大学が教育・学術機関であると共に地域産業振興の拠点として如何に貢献できるかは、全国的に注目される試金石になると認識しています。新学部の教育・研究体制、官民の共同研究の成果に是非ご注目頂きながら、さらに皆様も新学部と共に、この挑戦に参加しませんか。

材料エネルギー学部

2023年4月誕生!!

特集
3

島根大学初の工学部「材料エネルギー学部」が4月よりスタートを切りました。材料エネルギー学部は、全世界で対応が急がれるエネルギー問題を、「素材・材料」の視点から理解し解決する全く新しい学部です。新材料・新素材の研究開発を通して、社会に大きな変革をもたらすイノベティブな人材を養成します。



「材料エネルギー学部」のミッション

エネルギー問題(カーボンニュートラル等)を素材・材料の視点から理解し解決する

(例)電気自動車を支える材料



材料イノベーション



材料エネルギー学部
教育・研究の推進

世界に誇る教授陣

金属材料、ナノ材料、有機・無機化学をベースとした広範な材料研究者をはじめ、マテリアルズ・インフォマティクスやデータサイエンスの専門家、アントレプレナーシップ教育で指導的立場の研究者など、世界に誇る教員が揃っています。

VOICE

一期生の声

私は将来、補強材の開発に携わりたいと考えています。中学生の時に橋を渡っていた際、揺れを体験し、橋が修復されていないことに疑問を持ちました。現在日本では、高度経済成長期に建てたインフラの建て替えが必要になると考えられます。しかし、少子高齢化などによる経済規模の縮小で直ちに問題を解決するには難しい状況にあります。そのため、私は補強材開発の研究で建物を長持ちさせ、過疎地域の財政面に貢献したいと考えています。材料エネルギー学部では、材料の物性について学び、卒業後は地域のインフラの問題に向き合っていきたいです。



島根県立出雲高等学校 出身
西田 彩乃 さん

私は高校2年生の時から「材料」の分野に興味を持ち、高校3年生の夏に材料エネルギー学部の存在を知ってから進学したいと思うようになりました。ここなら自分の学びたい「材料」の分野と、現在世界中で注目されている「エネルギー」について学べるのではないかとわくわくしています。私は授業でジュラルミンの存在を知ったことがきっかけで材料に興味を持ち始めたので、大学に入学してからはアルミニウムなど金属についてたくさん学びたいです。そして大学で得た知識を最大限に活かして、エネルギー問題の解決に貢献できるような素材の研究・開発をしたいと思っています。



福山市立福山高等学校 出身
木下 空温 さん

VOICE

産業界からの期待の声

脱炭素化などにより産業構造が大きく変化する中で、今後も、県内産業が持続的に発展していくためには、各企業が高度専門人材を確保し、研究開発力の強化を図り、新分野へ参入するなど、「新たな収益の柱」を確立していく必要があります。材料エネルギー学部の創設により、こうした企業の挑戦を加速するために必要な、高度専門人材が育成されることに、大きな期待を寄せています。県内産業界としても、「共同研究」や「実践教育」に積極的に参画するなど、連携を図っていききたいと考えております。



協同組合 島根県職工会
児玉 泰州 理事長

材料エネルギー学部の教員紹介

材料の安全を見守る超音波

働き盛りの社会人が健康維持のために人間ドックを受けるように、発電所や航空機のようなインフラ構造物にも安全検査が行われます。超音波非破壊検査は構造材料の破壊の起点になる材料中の欠陥や損傷を見つけるためのキーテクノロジーです。しかし、応用が広がるほど、高減衰素材、高温測定、波長以下構造など次々課題が出てきます。材料エネルギー学部では、これらに対して超音波センサ(探触子)の新開発で根本的解決を図ります。波動伝搬シミュレーション、センサ作製、計測器や信号処理のプログラミング、これらを使った実験を通して、構造材料の安全利用に必要な基礎を学ぶことができます。



東北大学
大学院工学研究科より着任
辻 俊宏 准教授

計算科学による準安定状態図

原料組成や温度の条件を基にどのような材料が合成されるのかを予測する状態図は材料の地図とも呼ばれ、開発・研究に広く活用されます。私は近年発展が著しい計算科学を利用して、実験だけでは測定できない領域も含めた熱力学的物性値を評価することで、効率的かつ高精度の状態図開発を進めています。さらに、本手法では安定な物質だけでなく、未知の準安定物質の情報も含む状態図が得られることから、未踏領域の材料開発基盤となることが期待されます。材料エネルギー学部では状態図の見方や活用方法、状態図を構成する熱力学の基礎を学ぶことで、材料開発の広い視野を持つことができるようになります。



東北大学
多元物質科学研究所より着任
榎木 勝徳 准教授

医療を支える材料科学

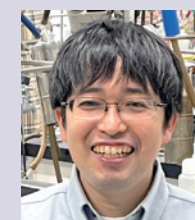
病気の診断や治療に役立てるための技術開発を材料科学の観点から進めています。生体と接触させて用いる材料(バイオマテリアル)を設計し、薬物を体内の特定部位に送り届けることで、治療効果の向上や副作用の軽減ができるような材料の研究と応用を展開しています。また、細胞や組織を材料として用いることにもチャレンジしています。ヒトの臓器のミニチュアを生体の外でつくり、私たちが設計した高分子と組み合わせることで、新しい材料を生み出すことをめざします。材料エネルギー学部では、知識や技術の習得とともに、デザイン力と自ら発信していく力を一緒に身につけていきましょう。



株式会社
Jiksak Bioengineeringより着任
戸井田 さやか 講師

金属-有機材料による合成

私は現在、有機物と金属を組み合わせた材料を用いることで、身の回りの製品や薬などをどうやってうまく作るかということに挑戦しています。私たちの生活は様々な製品によって支えられていますが、製品を作るために地球上の限りある資源を急速に消費していることが問題となっています。そこで、持続的な発展を続けるためには、製品を効率よく作るための材料を開発する必要があります。このような材料を開発するためには、科学に関する幅広い知識が必要になりますが、材料エネルギー学部では、材料、化学、情報などについて幅広く学ぶことができます。



青山学院大学
理工学部より着任
澤野 卓大 准教授



島根大学に留学



FROM



出身国

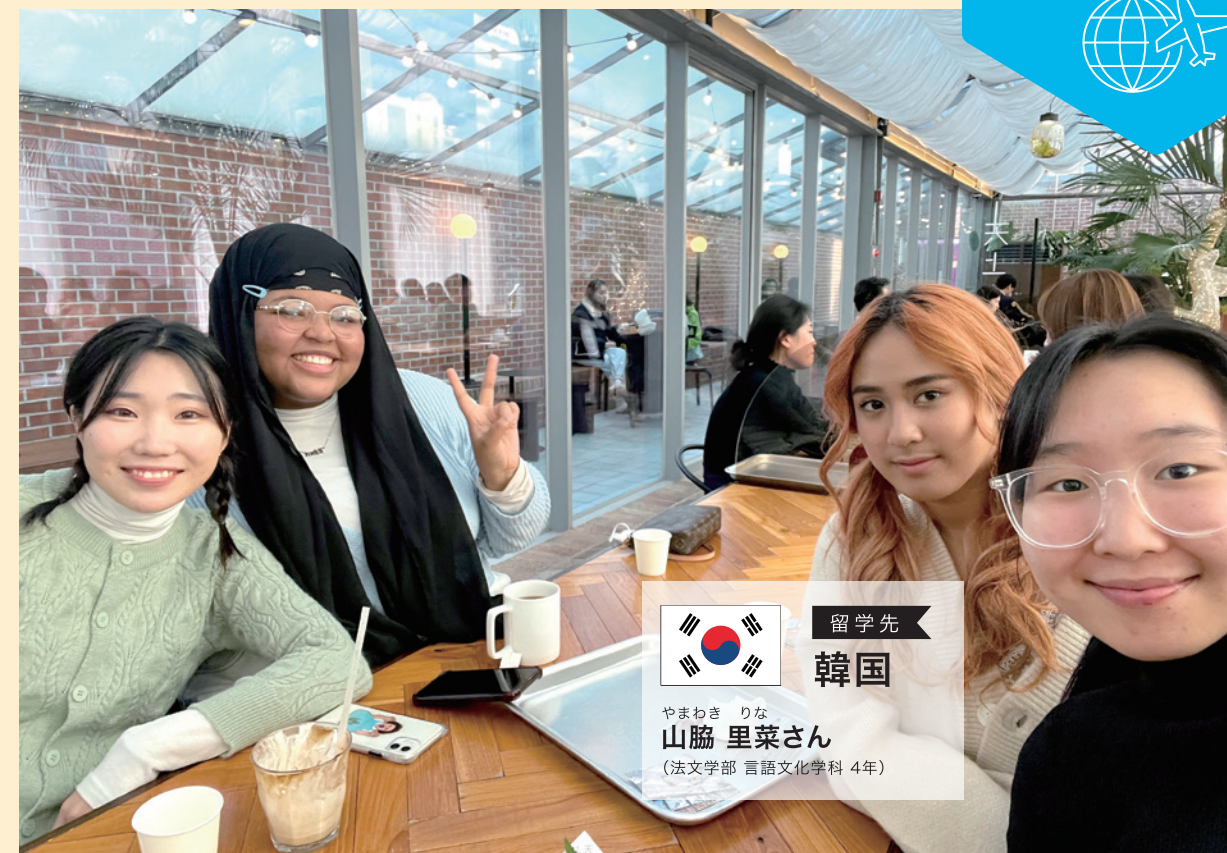
ドイツ (トリア大学)

ケルム・ベネディクト

KELM BENEDIKT さん

(法文学部 交換留学生)

韓国外語大学(韓国)に留学



留学先

韓国

やまわき りな
山脇 里菜さん
(法文学部 言語文化学科 4年)

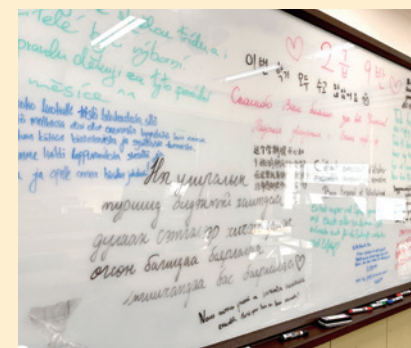
授業後に、各国の友人と集まって会話の練習をした時の一コマ(右が山脇さん)。

失敗を恐れずにやってみることが大事！ 会話練習を重ねて語学力を磨く

大学3年生になって将来を考えた際に、就職する前にもっと広い世界を知りたいという思いが強くなり、留学を決心しました。以前から韓国の文化に親しみがあつたため、留学先は韓国に決めました。

少しだけ韓国語を勉強して自信满满で行きましたが、まったく足りないレベルだったようで、当初は生活の全てが難しく苦労しました。会話がうまく伝わらないことも多かったですが、授業後に友人とその日習った韓国語を使って会話練習を続けたおかげで、今ではほぼ韓国語で会話できるようになりました。春休み期間中には、定期的に英国出身の友人と会って、お互いの言語を、韓国語を使いながら教え合いました。学ぶにつれて、友人の言いたいことが正確に分かるようになり、相手をより深く知ることができて嬉しいです。

留学してみて、以前より失敗を恐れなくなつたと感じます。これまでは韓国語を間違えるのが怖くて黙ってしまうことが多かったですが、多少間違っても相手は理解してくれるので、やってみることが大事だと分かりました。今後は、まだ行つたことのない場所に行つてさらに韓国を深く知りたいです。また、韓国で知り合った各国の友人の故郷にも遊びに行つてみたいです。色々な国で色々な物事を見て知つて教養を深めたいです。



学期最後の日、お互いの故郷の言葉で、クラスの友人に向けた感謝の言葉を寄せ書きしました。

周囲のサポートのおかげで 日本語力に自信がついた



1. オンラインで知り合った友人と食事に行った時の様子。2. 春休みに家族が来日し、2週間国内を旅行しました。写真は福岡の太宰府天満宮にて。

母国の大学では日本学を専攻しています。卒業論文のための資料集めや日本語力の向上、日本文化に触れたいと考え、留学しました。留学当初は日本語があまり上手く話せず、様々な場面で苦労しました。そんな私にとって一番心強かったのは、留学生をサポートするチューターの日本人学生の存在です。チューターがいなかったら、市役所での手続きなど一人ではできなかったと思います。また、先生方も授業で分からないことがあると丁寧に教えてくださつて、とても協力的です。所属する研究室の研修旅行で大阪の国立文楽劇場に行き、人形浄瑠璃を初めて見ました。内容を理解するのは少し難しかったですが、日本文化に触れられたことは印象的でした。

授業で日本語を学び、大学の友人と話しているうちに、日本語で話すことに慣れ、少しずつ自信が持てるようになりました。9月にはドイツに戻りますが、今後、日本での就職も視野に入れて、日本語力をもっと上げていきたいです。

人間活動と環境の関係を 空間的視点でとらえ、 地域住民のQOL向上を考える

地価の二極化を招いた 「不動産の金融化」

気候変動や自然災害の多発が世界的課題になっていることに加え、グローバル化が進んだ近年、注目されている学問の一つが地理学です。2022年度からは高校の必修科目となりました。

人文地理学が専門の菊池准教授は現在、「不動産の金融化」が地域社会や構造に与える影響を研究テーマにしています。不動産の金融化とは、金融商品に変換された不動産に、金融市場から大量の資金が流入すること。「たとえば投資家から集めた資金で不動産を取得し、そこから得られる賃料収入や売買益を投資家に分配するリート」という仕組みがありま

す。この共同投資には、アセットマネジャーやプロパティマネジャー（※）、法律や税務・鑑定のプロなど多くの専門家が関与します。効率的なリート運用ができる大都市では不動産価格が上昇しますが、地方ではリートも作られにくい。大都市圏と地方の地価の二極化には、不動産の金融化も大きく関与しているのです」。

地域が主体的に関わる 共同出資の仕組みに

近年、メガソーラーを通じて地方の土地も金融商品化しつつあると菊池准教授は指摘します。再生可能エネルギーの固定価格買取制度の開始と共に、各地で太陽光発電施設の建設が増加。中でも巨額な初期投資が必要なメガソーラーは、共同投資の仕組みで開発する事例が急増しました。「利益至上主義のもとで運用すると、固定資産税などを通じて地域にお金が入ってくる一方で、儲からなくなれば施設が放置されてしまうなど地域に大きな影響を与える可能性があります。そのため、施設の設置や運営に地域が主体的に関われる

仕組みづくりが重要なのです」。菊池准教授が調査を行った岡山県の例を紹介してくれました。津山市を中心とする8市町村の都市圏では、ゴルフ場の跡地などにメガソーラーが36カ所設置されています。（2021年9月30日時点）うち半数近くが共同出資の仕組みでした。一部の自治体では、設置業者が地元企業と草刈りの包括委託契約を結んだり、太陽光のパネル税をかける条例を作るなど、安易に施設を作ったり地域から出ていったりしにくいよう規制しています。「観光地開発などにも同様の問題が潜んでいます。共同出資者の背後には、各国の年金基金や銀行、保険会社などの機関投資家があり、実は国民一人一人が関与しています。身近な地域の景観の変化は他人事ではないことを知ってほしいです」。

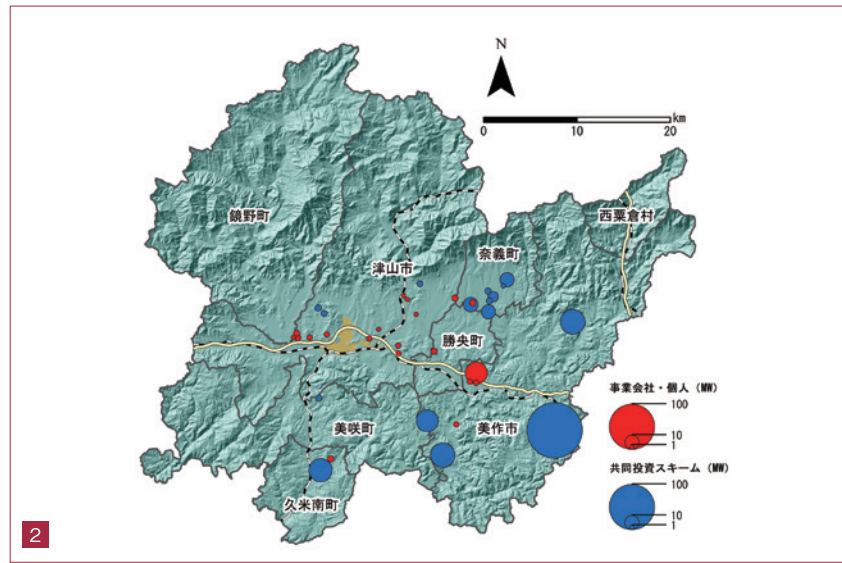
島根では空き家の増加も課題の一つ。人口や土地の需要が減る中、地域の資源をいかに活用し、課題を解決していくかを考えるのも地理学なのです。「ノウハウのある業者を介した観光利用もいいですが、地元の人たちのクオリティオブライフ（QOL：生活の質）を向上させるような可能性を模索していきたいです」。

地理学と聞き、世界の国々の場所や人口などを暗記するイメージを持つ人が少なくないのではないのでしょうか。しかし本来、地理学とは自然環境とそこに住む人々の関係について空間的な視点からとらえる学問であり、特に社会文化学科の菊池慶之准教授が専門とする人文地理学では、人間の活動に焦点を当てています。



PROFILE
法文学部 社会文化学科
菊池 慶之 准教授
きくち よしゆき

父親が国有林を管理する営林署に勤めていたので、幼少期は各地の山村に住んでいました。都会にあこがれ、そこにある建物や景観、暮らす人々に関心を持つように。地理学はフィールドで生の情報を集めるのが最も大事。学生にも現場でのヒアリングを推奨しています。



1. 岡山県津山市に設置されたメガソーラー。2. 津山市都市圏におけるメガソーラーの分布。地域的に影響の大きい大規模なメガソーラーは、域外の多数の主体が複雑に絡み合った共同投資スキームが多いことが明らかになった。3. 地理学研究室に所属する学生のフィールドワークの様子。4. しまね大交差点で、来場者に研究成果を発表する地理学研究室の学生。



※アセットマネジャー：投資戦略の策定や物件の取得・運用・売却などを行う組織 ※プロパティマネジャー：個別不動産の維持・管理や賃貸業務などを行う組織

ランダム系材料の 構造を解明 全固体電池開発にも一役

原子が無秩序に並ぶ
非結晶の解析に注力

原子や分子、イオンが規則正しくあるパターンの配置を繰り返して並んでいる物質を結晶と言います。雪や金属、ダイヤモンドなど私たちの身の回りには多くの材料は結晶です。一方、原子や分子が無秩序に並んでいるガラスやゴム、水などの材料は非晶や「ランダム系」と呼ばれています。

物質の性質は、原子や分子の種類や並び方で決まります。そのため性質をより理解したり、機能的な物質を開発したりするためには、構造解析を正確に行う必要があります。「結晶の場合、X線をあてるなどして構造を解析する方法が確立しています。しかし、ランダム系材料

はX線をあてても、乱れているという特徴しか分かりません」。そこで尾原教授らが活用しているのが、ある距離にある原子のペアを探し出す「PDF（二体分布関数）解析」という方法。原子間距離や隣り合う原子の個数などが分か

ります。材料エネルギー学部の新設に合わせて着任した尾原教授は、「地球上には結晶の材料が遥かに多いので、ランダム系にPDF解析手法を用いる研究は多くなく、研究のしがいがあります」と話し、「島根大学ではPDF解析に加え、従来説明できなかった材料の解析にも力を注ぎ、地域企業との共同研究も積極的に進めたい」と抱負を語ってくれました。

全固体電池に使う 電解質の研究にも参画

前任地の高輝度光科学研究センター（JASRI）では、多くの企業や大学と共同研究を実施。昨年末には、横浜国立大学敷内教授の研究グループと、充放電時の格子体積変化を生じない高容量電池材料を開発しました。二つの電極と

雪の結晶を見たことがあるでしょう。正六角形のパターンが規則的に広がっています。一方、ガラスや水などは、物質を構成する原子が規則的に配列していないため、構造解析も容易ではありません。これらランダム系材料の構造や機能の解明に注力しているのが、材料エネルギー学部の尾原幸治教授です。



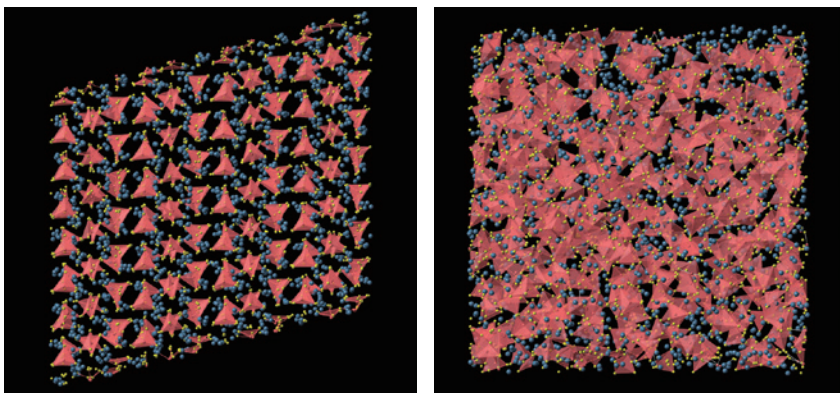
PROFILE

材料エネルギー学部 材料エネルギー学科
尾原 幸治 教授
おそわ こうじ

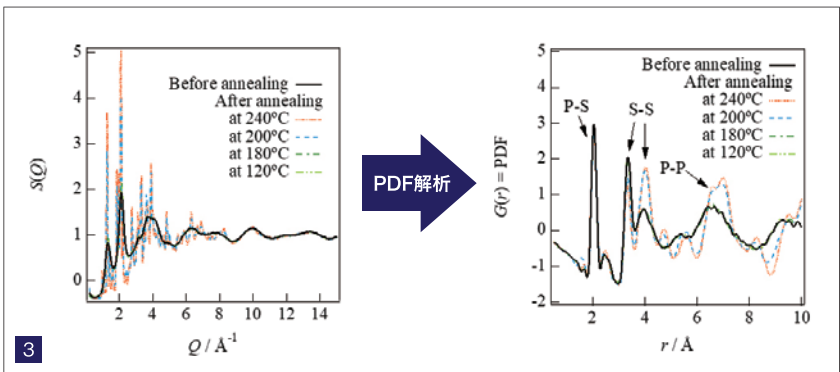
学生時代は結晶材料の構造解析を行っていたのですが、当時は使える解析ソフトが限定的で研究環境があまり整っていませんでした。そこで情報関連企業に就職して技術を習得。自らプログラミングもできるようになり、再び研究の道へ。やりたいことも広がりました。

液体の電解質で構成されているリチウムイオン電池に比べ、すべての部分が固体の全固体電池は、大容量高出力が可能になると期待されています。しかし放電時に膨らんだ体積を吸収できないのが難点でした。研究グループは、ほとんど膨らまない材料を開発。尾原教授はPDF解析で、この材料が結晶から非結晶に変化したことを確認しました。

形状の自由度が高く、急速充電や超長寿命化が望める全固体電池は、電気自動車（EV）車の普及を始め、様々な分野で高い需要がありますが、実現には課題も少なくありません。尾原教授は、電解質部分をガラスにする取り組みにも関わっています。「硫化物ガラスはリチウムイオン伝導率が高い一方、空気に触れると硫化水素ガスが発生するなど解決すべき点はまだ残ります」。尾原教授の着任を機に、JASRIが利用者支援などを行う大型放射光施設（Spring-8）と島大の連携協定も締結します。「世界最高性能の放射光を生み出せる施設でインターンなども体験できます。専門性の高い技術を持つことでキャリアも形成できるはず」と学生にメッセージを送ってくれました。



2 結晶 非晶（ランダム系）



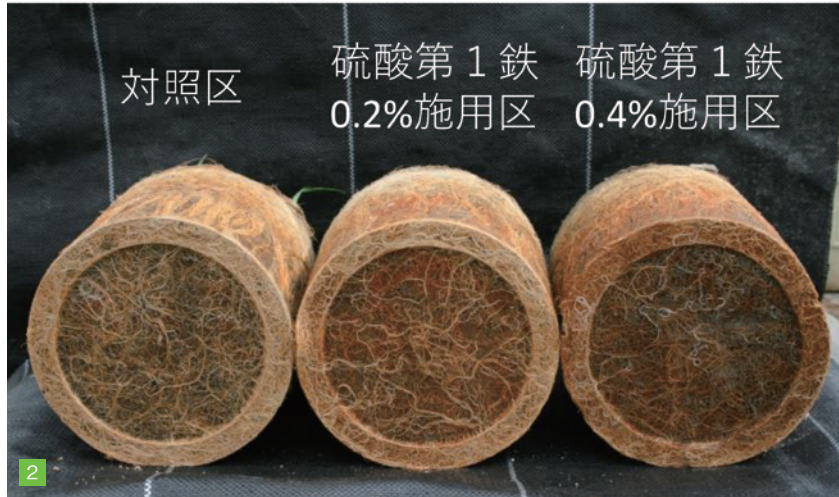
3 1. 世界トップレベルの高輝度X線が利用できる大型放射光施設「Spring-8」で、毎年夏に実施されている夏の学校において、学生に講義を行う尾原教授。2. 原子の配置が対称性を持つ「結晶」（ダイヤモンド、水晶など）と、原子の配置に対称性は見られないが、短距離で秩序を持っていると思われる「非晶」（水、ガラスなど）。3. 硫化物固体電解質を加熱した際の変化を、放射光X線により測定したもの（左）とPDF解析を行ったもの（右）。

安全な農産物を目指し 土壌の化学性を研究 食品ロスの肥料化も実現

適切な土壌管理で
食の安全性を守る

作物が十分に生育するためには、窒素やリン、カリウムなどの栄養分が必要です。しかしそれらが含まれる肥料をやりすぎると、逆に作物が弱ったり、収量が減ったりします。適切な量を収穫するためには、適切な肥料を与えることが大事なのです。

加えて、農耕地の土壌づくりで重要なのが安全性です。土壌内には養分だけでなく、カドミウムやヒ素など生物が吸収するには好ましくないものも含まれています。それらが土を通じて作物に伝わり、ひいては人間の口に入れば、健康被害が生じます。代表的な例が、四



1. 本庄農場の水田でモニタリングを行う学生たち。農業生産を支える土壌研究の魅力を学生たちに伝えていきたいと松本教授。
2. 水稲の根表面に形成される鉄被膜に、ヒ素が吸着される。3. 島大オリジナル肥料「キャンパスト」。4. 2022年には玉造温泉わくわくマルシェに島根大学として参加。キャンパストの販売も行った。

大公害病の一つとして知られるイタイタイ病です。「鉱山から排出されたカドミウムが河川や農地を汚染し、米を食べた人が病気になるました。重金属などによる土壌の汚染をできるだけ軽減したり、存在しても作物が吸収しないように土壌を管理したりすることは非常に大切なことです」と松本教授が説明してくれました。

近年は重度の土壌汚染こそ発生していませんが、国際的な基準は厳格化。そこで注目されているのが、植物を利用して軽度な汚染を修復するファイトレメディエーションです。福島第一原子力発電所事故の被災地で、土壌内のセシウム吸収を目的に、ひまわりが数多く植えられた様子を目にした方も多いのではないのでしょうか。

ただ汚染物質の吸収は容易ではありません。松本教授が例に挙げたのが、水田でのカドミウムとヒ素です。「水を張ってれば、カドミウムは稲に吸収されませんが、ヒ素は水に溶けやすい形態に変化するので吸収されやすくなります。逆に水がなければカドミウムが吸収されやすくなるのです。土壌改良資材を入れるなどしてうまく調節する必要があります」。



農作物は土の中の養分を吸収して育ちます。そのため、土壌内の成分や量、吸収の程度などによって、収穫量や品質、安全性が大きく変わります。附属生物資源教育研究センターの松本真悟教授は、農耕地に適した土壌や、農作物が土壌内の養分を吸収する仕組みなどについて研究しています。



PROFILE

生物資源科学部 附属生物資源教育研究センター
松本 真悟 教授
まつもと しんご

大学卒業後は民間企業で、朝鮮人参の苗を大量に増殖するバイオ関係の仕事を担当。その後、県農業技術センターへの転職を機に土壌肥料の研究に取り組んでいましたが、春になると他部署への異動が気になって(笑)。公募を機に研究を継続できる大学教員に転身しました。

大学食堂の廃棄物を オリジナル肥料に再生

一方、生育した農産物を使った食品が大量に廃棄されていることを憂いていた松本教授は、約15年前から民間企業と共同で食品ロス肥料の研究もスタート。生ごみから有機質肥料を製造できる高温好気発酵分解装置を開発しました。「食品は、肥料成分が姿形を変えたもの。輸入により世界中から集めてきた肥料成分を燃やしてしまうなんてあまりにももったいない」。

2021年度からは、大学生協食堂から排出される年間約10トンの有機性廃棄物の減容化と肥料化に取り組み、島大オリジナル肥料「キャンパスト」が誕生しました。市販の肥料より肥料効果はやや遅いものの、持続性が高いのが特徴です。昨年末に松江市内のイベントなどでデビューし、春からは本庄農場で販売する予定です。「食と肥料、土壌は切っても切れないもの。肥料を通して、安全な農産物栽培に関心を持ってもらえれば。将来的には、病院や学校、公的機関などでも活用してもらえようという取り組みを進めていきたいです」。

社会で活躍する卒業生

A graduate of Shimane University

No. 17

営業職(電気)

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は島根電工株式会社勤務の鍛冶さん、現在の仕事内容やそこに至るまでの道のり、今後の展望についてうかがいました。

生活や業務上の困りごとに真摯に耳を傾けながら快適な暮らしをお手伝い

設備工事業界において山陰エリアNo.1を誇る島根電工株式会社。「住まいのお助け隊」といえば、山陰に住む人にとっては聞き馴染みがあるのではないのでしょうか。同社の松江営業所に勤務しているのが、卒業生の鍛冶さんです。入社以来、営業として、個人住宅や地元の工場、マンション・不動産などを担当しています。「大学時代に学んでいた分野とは全くの畑違いだったため、最初の難関は電気設備に関する知識を身に付けることでした」と入社当時は振り返ります。同社には社員の成長を支援するB・B制度(※)があり、とにかく分からないことは先輩に聞いて、経験を積んでいったそうです。「最初の頃は思うようにできないこともたくさんあって本当に苦労した分、最近ではお客様にきちんと説明できた時は、少しは成長できたなあとうれしくなります。先輩方のおかげですね」。

鍛冶さんが個人宅や企業等に対応する内容は規模の大小も様々です。「最近でいうと、工場の

※B,B(ビッグ・ブラザー)制度…入社3年間、特定の先輩が公私にわたる相談相手となって指導・支援する制度。



Profile
鍛冶 虎之介 さん
島根電工株式会社
松江営業所 営業課
島根県江津市出身。2021年3月に人間科学部 人間科学科 身体活動・健康科学コースを卒業。2021年4月に島根電工株式会社に入社する。大学時代に経験した地域での様々な活動経験を活かしながら、営業として、地域の人の生活や業務上での困りごとに対応している。

照明が古いから取り替えられるか、といった相談を受けました」。現場を見にいくと、工場内では水銀灯が使用されていました。水銀灯はすでに生産が終了していること、また、工場内が暗い印象だったこともあり、照明のLED化を提案。LED化にあたって、補助金を利用できたことから、申請書類の作成等も鍛冶さんがサポートしました。最初の提案から工事完了まで、約半年にわたる案件だったと言います。「お客様から、LEDに変えてから工場内も明るくなって良くなったよと喜んでいただけ、とても達成感がありました」。

外に出て地域を知り、地域が抱える課題を解決、根底の想いが今に通じる

島根大学に人間科学部が設置された2017年に、学部1期生として入学した鍛冶さん。人間科学部で専門科目を学ぶと同時に、地域人材育成コースにも所属し、地域関連科目も学んでいました。「地元島根が好きだったので、外に出て地域に関わるようなことも積極的にやっていた」と当時の想いがあります。

在学中にはスポーツを通じて島根を盛り上げたいと考え、学部の同級生とともに、「シマスポ」という団体を立ち上げました。「隠岐の島町に住む小学生たちにバブルサッカーやスラックライン等、最新のスポーツを体感してもらえ、イベントを企画しました。離島は、本土に比べると多種多様な最新のスポーツを体験できる機会が少ないので、思いっきり遊んでほしいと考えました」。このほかにも、小学生を対象にした車いすバスケット

ボールやボッチャのイベントなど、開催場所を変えながら定期的に活動を行ってきました。

学部の所属コースでは、実習の一環で県内各地に出向いて高齢者の方の体力測定をしたり、介護予防事業を行う企業で高齢者の方と一緒に運動をしたり買い物のサポートをしたりする機会もありました。また、地域貢献の取り組みのひとつとして、「ために(元気に)長生き」を目指した体操を作成し、その動画撮影にも携わるなど、活動は多岐にわたります。

「島根大学の」とともに地域とともに」というキャッチフレーズ通り、大学時代は地域に出て、いろいろな方と話す機会がたくさんありました。学生のうちに幅広い年代の人と関わったことは、現在の業務において、お客様との接し方やアプローチの仕方等にとっても役立っていると思います。個人のお客様の中には年配の方もいるのですが、提案の際に学部での



現在も定期的に大学に顔を出して、今の仕事について学生に話をする機会もあるそうです。

学びも役立っていると言います。「自宅に訪問した際に、例えばスイッチの位置はこの場所に変えた方が使いやすいなど、その方の暮らしぶりや健康状態に合わせた生活導線の提案もしています。そういった目線での提案は、身体活動・健康科学コースにいたからこそかなと思います」。



コンセントの調整をする鍛冶さん。入社後に第2種電気工事士、消防設備士の資格も取得しました。

この春で入社3年目、まだ毎日の業務をこなすので精一杯と話しつつも、「僕自身が先輩方からいろいろ助けていただいたように、新しく入社してくる後輩たちに頼られるような社会人になりたいです。地域の方に向けても、ひとつずつ丁寧な仕事をして、信頼して任せてもらえるような関係を築いていきたいです」と先を見据えます。大学生から社会人へと、立場は変わりましたが、地域が抱える課題を解決したいという想いは変わらず、日々の業務の原動力になっています。



お客様からの相談を基に提案内容をまとめ、OKが出ればそれを施工担当者に繋ぎます。

読者の声
Voice

広報しまだい vol.53に寄せられた声をお届けします。

観光分野に興味があったので「学長対談」がとても興味深かったです!

(島根県松江市・10代女性)

島大学生広報サポーターのインスタを知り、大学の様子を知ることができ、楽しく拝見しています。

(兵庫県加古川市・40代女性)

島大の地域密着型の取り組みに好感が持てます。

(島根県出雲市・60代女性)

学外の人が読んで興味を持ちやすいように、社会への影響も踏まえた内容に面白くと思います。

(長野県岡谷市・50代男性)

材料エネルギー学部の魅力を感じられるようにもっと特集してください。

(島根県出雲市・60代男性)

News 1 「高校生のための金属工学実験2022」を実施



2022年12月5日(月)～12月9日(金)の5日間にわたり「高校生のための金属工学実験2022」を実施し、松江市内の高校から合計18名の生徒が参加しました。期間中の毎日夕方5時から6時半の間、松江キャンパス内で行われた実習には、「金属の強さ」「粉末から光るセラミックスをつくろう」「ジェットエンジンの作動と材料を知ろう」「磁石を作ろう」という4つのテーマが用意され、テーマごとのグループに分かれて学習しました。高校の授業とは雰囲気の異なる実験やグループ学習に、生徒たちは目を輝かせて取り組んでいました。

参加した高校生からは、「化学式など授業で習ってはいたが、実際に作ってみることは初めてで興味が深まった」「難しい内容だったが、グループ内で話しながら理解していくことが楽しく、まだまだ研究したいと思うほどだった」「今回の経験を通して、理系に進みたい気持ちが大きくなった」などの感想が聞かれました。

News 2 学会発表で学生が受賞



今井 清香 さん (平山研究室)

自然科学研究科 理工学専攻
先端材料工学コース博士前期課程

第83回(2022年度)応用物理学会
秋季学術講演会
第53回応用物理学会講演奨励賞

第83回応用物理学会秋季学術講演会において「機械学習ポテンシャルによるFe-Si-B系アモルファス 形成過程シミュレーション」の題目にて発表を行いました。私は、鉄とシリコンとホウ素という3つの元素からなる金属を計算機上でシミュレーションし、ガラス状態の金属にどのような性質が現れるかを研究しています。今回のシミュレーションの結果、指導教員である平山先生らが研究してこられた内容と合致していることがわかりました。

今回の受賞は、研究結果を評価していただけたことを嬉しく思うと同時に、環境面でサポートして下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。今後は後輩が継続して良い環境で研究できるようバックアップにも努めていきたいと考えています。



眞鍋 奈央 さん (北川研究室)

総合理工学部
物理・マテリアル工学科

粉体粉末冶金協会2022年度
秋季大会 優秀講演発表賞

粉体粉末冶金協会の秋季大会で「周期的高圧力下でのSPS法※による低温での高密度Ti焼結体の作製」の題目で発表を行いました。チタンは、SPS法によれば700～900℃で高密度になるとされていますが、今回、周期的圧力下でSPSを用いることで、500℃という低温でも高密度のチタンが得られ、従来法で得られたものと比較して金属組織が大きく異なることが確認できました。

学会での発表は初めてで、まとめ方や見せ方の部分で苦労しました。しかし、指導教員である北川先生をはじめ、様々な先生方に助言をいただきながら研究を進めることができました。また、今回の発表を通じて他大学の先生方からも助言をいただき、新たな課題が見つかる有意義な機会となりました。

※SPS法…放電プラズマ焼結法(Spark Plasma Sintering)

これまでのNEXTAフレンズの取り組みはこちらから！

NEXTAフレンズでは、中高生のみならず在学学生や先生、卒業生の声やイベントの記録などを紹介しています。その他にもヘイソン・ニャー×NEXTAのコラボ漫画「NEXTAわくわく通信」や、漫画の内容をもっと深く学べる「アロイ先生のわくわく金属」を掲載しています。

NEXTAフレンズ

全コンテンツはこちら



NEXTA最新情報は

Twitterで
チェック！



たたら通信

次世代たたら協創センター(NEXTA)の旬な情報をお届けします！

研究者 pick up

平山 尚美 准教授



経験と勘をこえた材料開発へ AIの眼で観る金属の「中身」

独創的な最先端材料の開発で、日本は長年、高い競争力を維持してきました。磁石や半導体など数々の分野で、優れた機能をもつ材料が生まれています。しかし、これまでの材料開発は、実験をくり返す試行錯誤や経験と勘に頼ることが多く、多大な時間と労力を要するものでした。そこで、近年では、材料開発にAI(人工知能)を活用する事で、人手だけでなく「計算機の手」も借りる試みが広がっています。

NEXTAでは、モーターに利用されるアモルファス合金を研究しています。アモルファスは原子が規則正しく並ぶ結晶とは違い、ランダムで複雑な構造をもちます。中身が複雑なため研究が難しい材料ですが、通常の金属にはない「長所」も持っています。私たちは、物理学とAIを組み合わせたシミュレーションで、原子の動きから材料の機能を解明し、新しい材料創成に活かす研究を行っています。



平山 尚美 准教授

●研究キーワード/
ものづくり、物理学、
シミュレーション、AI(機械学習)

研究者 pick up

沓掛 あすか 助教



ものづくりにおける加工条件の最適化

身の回りの金属製品は形状や用途によって削ったり、打ち抜いたり様々な加工法で作られています。適切な加工条件を選択しなければ精度良く加工することができません。高強度な合金からできた部品は使用時だけでなく加工中の変形も難しくなるため、どのように加工するかが課題になることがあります。

加工条件を効率的に求める手法を研究しています。加工中の変形挙動を知るために高速度カメラで観察したり、数値シミュレーションに必要な材料特性のデータを取得するための材料試験も行います。生産現場で使われることを意識して、なるべく簡便に最適条件を求める方法を開発することでものづくりの発展に貢献したいと考えています。

私は実験、数値シミュレーション、機械学習を組み合わせ、最適な



沓掛 あすか 助教

●研究キーワード/
金属加工、切削、塑性加工、
積層造形、最適化

しまだいい便り

大学の旬な情報をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

1 若者と地域の未来を創るリアルな出会い しまね大交流会2022を開催



11月6日、松江市のくにびきメッセにおいて、「しまね大交流会2022」を開催しました。「しまね大交流会」は、学生、生徒と企業、自治体、教育機関等との交流の場として、2015年から毎年開催しており、今回は3年ぶりに全対面形式で行いました。

当日は山陰両県の企業・団体・大学・高専の120ブースが出展。約1000名の若者を含む約1400名が来場し、対面開催ならではの発見や思いがけない出会いを体験しました。参加した学生からは、「島根県で働くことの良さや支援制度を知ることができ、島根県での就職に関心が持てた」、出展者からは、「これだけの学生が集まるイベントは貴重なのでぜひ今後も継続してほしい」などの声がありました。「若者」と「大人」が一堂に会する本交流会が、キャリア教育イベントとして、地域の未来を担う「若者」の成長の場になっていくことが期待されます。



レーザー凝固されて白くなった毛様体

4 日本の失明原因第一位・緑内障治療への貢献に期待 世界初「グリーンレーザーECP治療」を開始

医学部眼科学講座・谷戸正樹教授のグループは、ファイバートック社と共同で開発し承認されたデバイスを用いて、新しい眼圧下降治療「グリーンレーザーECP」を開始しました。ECP専用装置の承認は国内初、グリーンレーザーを用いたECP装置は世界初です。

本手術は、従来の緑内障治療で十分に効果が得られなかった難治緑内障を対象に行う治療です。緑内障は、眼圧を低く保つことで進行が遅くなるという特徴があります。眼圧下降治療の中で、約10年前に登場したチューブシャント手術が最も効果が高い治療として行われています。しかし、少数ですが、チューブシャント手術でも眼圧が十分下降しない、あるいは、手術を行うことができない難治症例が存在します。谷戸教授のグループは、ファイバートック社と共同で、2014年から内視鏡的毛様体光凝固術(ECP)装置の開発を行ってきました。ECPは、チューブシャント手術無効例でも眼圧下降が期待できる術式として期待されます。2022年7月からこれまで治療を行った6症例は、いずれも順調に経過しています。本手術が、わが国の失明原因第一位の緑内障治療に貢献することが期待されます。

2 「とびっこハウス」がダブル受賞

空き家を活用しシェアハウスとして再生



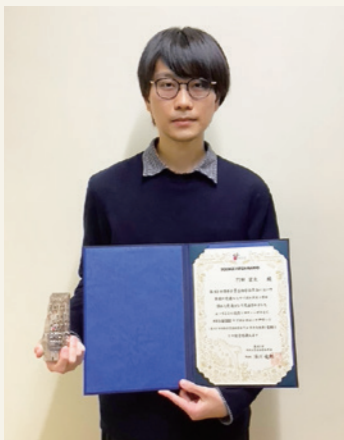
総合理工学部建築デザイン学科の建築計画研究室を中心とする学生・教職員が整備に協力し、2022年2月に竣工した「とびっこハウス」が、「ウッドデザイン賞2022(ソーシャルデザイン部門)」と「令和4年しまね建築・住宅コンクール優秀賞(活動部門)」をダブル受賞しました。「とびっこハウス」は、出雲市にある木造2階建ての空き家を、地域・行政と協働して改修し、学生のシェアハウスとして再生したものです。

3 676件のポスター発表から選出 大学院生のRaj Deepさんが受賞



自然科学研究科(博士後期課程)当時1年のRaj Deepさんが、昨年9月20〜23日に東北大学川内北キャンパスで開催された第83回応用物理学会秋季学術講演会で研究発表を行い、Poster Awardを受賞しました。次世代の発光ダイオード(LED)として期待される酸化亜鉛(ZnO)のナノ粒子を塗布して作製した紫外線LEDと蛍光体を用い、太陽光に近い演色性の優れた白色LEDの特性について発表しました。

5 植物ホルモンの新たな生理機能を解明 大学院生の門田さんが2つの賞を受賞



自然科学研究科(博士前期課程)当時2年の門田宏太さんが2つの賞を受賞しました。2022年11月から12月に行われた第45回日本分子生物学会年会では「MBSJ2022 Science Pitch Award(優秀発表賞)」を、同年12月に行われた植物の栄養研究会第7回研究交流会では「最優秀ポスター賞」を受賞しました。門田さんは、接ぎ木技術と栄養操作を駆使することにより、イソペンテニルアデニン型サイトカイニンが、植物の成長と免疫応答の調節に寄与することを明らかにしました。

6 最新の研究成果をもとに歴史を紐解く 「古代出雲文化フォーラムX」を開催



3月4日、大阪市で「古代出雲文化フォーラムX」を開催しました。「古代出雲と相撲・埴輪・儀礼」をテーマに、古代出雲の古墳祭祀、それにまつわる相撲や儀礼の歴史について、相撲の開祖とされる野見宿禰の伝承にも触れながら、講演が行われました。続いて、本学総合博物館に残る貴重な標本類等の紹介や、古代から島根に息づく材料製造技術に関連して4月新設の「材料エネルギー学部」が紹介されました。4年ぶりに対面での開催となり、大盛況のうちに幕を閉じました。

読者の声

広報しまだいい vol.53に寄せられた声をお届けします。

減塩システムが生活レベルで広まると良いなと思いました。

(島根県松江市・50代女性)

身近な大学の色々な活動をとっても楽しみに読ませていただいています。

(島根県隠岐郡・60代女性)

毎回見るたびに素晴らしいです！特に卒業生の皆さんが頑張っていますね。

(島根県松江市・60代女性)

教育現場の問題もぜひ取り上げてほしいです。

(島根県松江市・70代男性)

島根の観光資源を生かした特色ある教育をこれからもよろしく願います。

(島根県松江市・70代男性)

松江
キャンパス

鉄道研究会



山陰の鉄道を「楽しみ」 「盛り上げて」いきます

私たち鉄道研究会では鉄道を通じた活動を行っています。大学会館にて鉄道模型やシミュレーターなどを楽しむ部会を行うほか、昨年は持ちうる知識を生かして、授業「観光実践」の一畑電車の回に参加して活性化案を出しあうことや、JR木次線沿線のイベントへの出展、NPO法人江の川鉄道のトロッコ運行の手伝いなどを行いました。今後も、山陰を中心に鉄道を「楽しみ」「盛り上げて」いきますので、応援よろしくお願いします。

出雲
キャンパス

医学部 準硬式野球部



逆境を乗り越え 悲願達成へ！

私たち準硬式野球部は部員15名で活動しています。人数が少ない分、部員同士の仲が良いのが特徴です。ここ数年は公式戦が開催されておらず、対外試合は練習試合のみとなっています。そんな苦しい状況下ですが、今年開催予定の西日本医科学生体育大会での優勝に向けて、少ない人数ながらも練習方法を工夫し、部員ひとりひとりが考えながらプレーすることで日々鍛錬しています。

Shimadai's Circle

しまだい CLUB & CIRCLE INFORMATION

部活動

サークル

各キャンパスでそれぞれの特色を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

出雲
キャンパス

医学部写真部



海、山、川など各地へ出かけて 最高の1枚を追い求める

私たち医学部写真部は、「最高の1枚」を追い求めて日々活動しています。通常は月一回程度集まり、海、山、川、各地の名所へ出かけています。時には一筋縄ではいかないこともあります。カメラの複雑な設定を変えたりしながら、ああでもないこうでもないという部員みんなでシャッターを切っています。その中で、自分が、そして周囲が納得する1枚を追い求めています。出来栄の良い写真はコンテストに出したり、文化祭で展示しています。

学生の視点で
島根大学の魅力 を発信！



#馬術部



#新ロゴマーク発表記者会見

Instagramでは、学生目線で島大生の
キャンパスライフを紹介しています。



Instagram

展示設営も学生自ら行う 美術科教育専攻の 卒業制作展



記事・撮影：奥村しょうた
(生物資源科学部 環境共生科学科
2023年3月卒業)

教育学部美術科教育専攻では、4年次の最後に卒業制作展を開催します。今年の4年生は6名です。制作には1年間の期間を要し、大学4年間に学んだことを形にします。卒業制作展の前夜に行われた作品搬入・展示の現場取材しました。作品搬入・展示は、美術科教育専攻の学生の手によって行われます。美術科教育専攻の小谷教授によると、作品展示も美術教育の一環だそうで、4年生以下の学生も参加し、作品展示の手法や手際を実践しながら学んでいきました。

2月15日～20日まで、島根県立美術館ギャラリーにおいて、絵画、彫刻、デザインの3つの分野の作品が展示され、学生それぞれが1年間向き合ってきた集大成であると同時に、今後の進路に向けた出発点となる力作の数々が並びました。



学生 広報サポーター

レポート



島根大学では、学生の視点や発想を生かしながら、ボランティアで広報活動を行う「学生広報サポーター」制度を設けています。学生広報サポーターの記事の一部を紹介します。

3年ぶりの開催！ 図書館の本を学生自らが選ぶ 学生選書ツアーを開催



記事：村田 明日香
(法文学部 言語文化学科 3年)

11月2日、島根大学附属図書館が主催した「学生選書ツアー」が行われました。このツアーは、図書館を利用する学生自身が、読みたい本を書店で直接選び、図書館に蔵書するという趣旨で企画されました。松江市田和山町にある今井書店グループセンター店の協力の元、参加した12名の学生は、思い思いの本を手に取りました。

選書終了後、今井書店グループ営業本部の横山愛磨さんは、「幅広いジャンルの本を選んでいるのが印象的だった。若い世代の本離れが進む中で、まずは読みやすく興味のある本から手に取ってほしい。その後、ぜひ難しい本にもチャレンジしてもらいたい」と総括しました。今回のツアーを経て蔵書された本は170冊。図書館1階の新着コーナーに12月から1月の間展示されました。



信頼の実績・高品位ソフトウェア開発

SOFT KAIHATSU
Everything begins with one will.

株式会社ソフト開発

東京本社：東京都町田市鶴岡 TEL:042-795-7613
広島オフィス：広島市安佐南区西原 TEL:082-850-0877

希望に満ちた未来ある若人を応援します

鳥大出身の社長とメンバーが数名・一緒に働く仲間 募集中です！ <http://www.softkaiatsu.co.jp/>

ディーゼルエンジン用部品/産業機械用部品
鋳物業材~加工完成・組立~買生産

テクノロジーと信頼で『夢・希望・未来』を創出する

ヤンマーキャステクノ株式会社

(本社・松江事業部) 〒690-0025 鳥根県松江市八幡町960番地 ☎0852-37-1355
(甲賀事業部・製造技術センター) 〒520-3233 滋賀県湖南市柑子袋360番地 ☎0748-72-0800

<https://www.yanmar.com/jp/about/company/ycat/>

~よりよい環境づくりを目指して~

株式会社 COSMO 建設コンサルタント

土木設計・測量・地質調査・補償コンサルタント
鳥根県出雲市斐川町荘原 2226-1
<https://cosmoc.jp/>
☎0853-72-1171

WE LOVE SUN-IN!

楽しい街づくり
に貢献します

株式会社メリット TEL.0852-23-2230

一歩したへ、未来へ

地域創造企業 **SHOWA**

私達は、ものづくり支援で、未来の扉を開く
あなたのベストパートナーとして一緒に輝きます。
<http://www.showa00.co.jp/>

建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量・地盤調査・地盤改良工事
株式会社 昭と測量設計事務所
求人のお問い合わせは 営業エリア：鳥根、広島、山口、鳥取、岡山
【益田本社】鳥根県益田市高津四丁目14番6号 【浜田事務所】鳥根県浜田市治和町832-11
TEL (0856) 23-6728 FAX 23-6573 【営業所】松江・大田・川本

鳥根大学生協同組合は
鳥大生の住生活をサポートしています!

★毎年約700の方が生協でお部屋を決めています。
★管理物件を募集しています。ご相談ください。

学生向管理物件 登録部屋数 約1,600室

鳥根大学生協同組合
〒690-8504 鳥根県松江市西川津町1060 Tel0852-20-0881
<https://www.shimadai.coop/>

先進のIT技術で
未来を拓く。

日本システム開発株式会社
〒690-0003 松江市朝日町480番地8 松江SKYビル3F
TEL:0852-28-7175 FAX:0852-28-7233 HP: <https://www.nskint.co.jp/>

鳥根大学総合博物館アシカル

月~土 10:00~17:00 (日・祝日は休館)
鳥根大 松江キャンパス内 入館無料

気軽にのぞいてみてね!

広告募集

広報しまだいで、企業・団体様等からの
広告を募集します。

鳥根大学企画広報課
TEL : 0852-32-6603
gad-koho@office.shimane-u.ac.jp

鳥根大学支援基金より

鳥根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先
鳥根大学総務課支援基金担当
Tel 0852-32-6015
Mail sienkk@office.shimane-u.ac.jp
<https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

支援基金HP

物価高で苦しむ学生を支援するため、「100円弁当」を販売しました。

「毎日食費を節約しながら生活している」。物価高で厳しい生活を余儀なくされ、そんな声をあげる学生を支援するため、令和5年1月から2か月間、「100円弁当」を販売しました。通常500円の弁当のうち、400円を皆さまから鳥根大学支援基金【使途B】にいただいたご寄附で補助し、100円で学生に販売しました。毎日約400個の「100円弁当」が1時間以内に完売する盛況ぶりでした。皆さまのご寄附により学生に「100円弁当」を届けることができ、感謝しております。

学生からは「100円弁当を継続してほしい」との声も寄せられており、今後も学生への支援を継続してまいりますので、引き続き温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



学生からの感謝の声

電気代、ガス代が高騰している中、食費を削減できるのはありがたいです。美味しくいただきました。ありがとうございました。
(総合理工学部2年)

国家試験前のためバイト等で生活費を稼げず、かつ自炊するのも買い物に行く時間やご飯を作る時間がなかなか取れずとても困っていたので、今回のご支援はとても有り難く、助かっています。本当にありがとうございます。
(医学部看護学科4年)

寄附する

- ▶ クレジットカードでご寄附の場合 ▶ 右の二次元コードからご寄附ください。
- ▶ ゆうちょ銀行口座への振込の場合 ▶ 右の二次元コード又はお電話(0852-32-6015)で、パンフレット「鳥根大学支援基金へのご協力のお願い」と鳥大会員のご案内」をお取り寄せください。
- ▶ 山陰合同銀行口座への振込の場合

鳥根大学支援基金 寄附者一覧

鳥根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただきたく組みです。パンフレットは上記ホームページにも掲載しておりますが、郵送いたしますので、お問い合わせください。

ご支援ありがとうございました。

※(単回) 令和4年9月1日~令和4年12月31日に5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)
※(継続) 令和4年度に5千円以上のご寄附をいただいた皆さまのご芳名は、令和5年7月号に掲載させていただきます。

法人等からのご寄附(単回) 株式会社Alumnote 協同組合鳥根県鐵工会 鳥根大学法文学部同窓会 鳥根大学松江木工クラブ 有限会社みはし薬局

個人からのご寄附(単回)

青柳和仁	飯泉翔太	池田道弘	石田千尋	石橋直樹	井上 望	居原田洋子	入江 純	植田敏也	大江将幸
大島和典	大谷 浩	大塚安貴子	沖貝 浩	加藤秀典	加藤昌代	鎌田芳生	川口憲昭	菅野哲介	北尾滋敏
北尾千恵	河野邦江	小林正康	小林祥泰	坂本英明	佐々木順承	佐藤利夫	下田京平	菅井達郎	杉村誠之
高澤太郎	多久和徹	Dustin Kidd	田中久美子	出川芳明	豊澤賢明	豊田真也	中橋良一	永森忠嗣	滑 純雄
野田寛志	農守浩治	服部泰直	林 浩喜	百留亮治	廣兼 敦	廣光一郎	福田亜希	福田健也	福田洋二
保田真由美	堀江健司	堀江誠二	松浦真也	松田幸枝	望月宣武	森口基十雄	門城祐司	山本節子	横井昌治
渡邊正人									吉武祥子

編集後記

本誌内でも取り上げさせていただきましたとおり本年は旧・鳥根大学と旧・鳥根医科大学が統合して20周年になります。20年目の本年は新しいロゴマークの運用が開始し、新学部がスタートする大きな節目となる年です。今号はこのように変わりゆく大学のこれまでと今を取り上げ、特集3の材料エネルギー学部では本学教員や新入生、県内の産業界の方から熱い想いを伝えていただきました。これから始まる新たな取組みにワクワクするとともに大学広報としてしっかり発信していかなくてはと決意を新たにしております。最後に今回の裏表紙は本学の公式SNSについてご紹介させていただいております。ぜひフォローいただき、最新情報を手いいただけると幸いです。

お聞かせください!あなたのご意見・ご感想

投稿のお願い
「広報しまだい」は、鳥根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。鳥根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの鳥根大学に関する話題、鳥根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

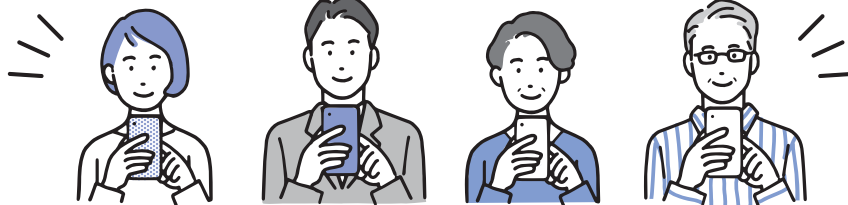
投稿先
〒690-8504
松江市西川津町1060
鳥根大学 企画広報課
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630
E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <https://www.shimane-u.ac.jp>

PRESENT
ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で5名様に、鳥大農場で収穫・加工した「いちごジャム」「ブルーベリージャム」各1瓶をプレゼントします。
※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/令和5年6月2日(金)必着

島根大学の 公式SNSのご紹介

島根大学が発信している
公式SNSアカウントをご紹介します。
大学をもっと身近に感じていただける
内容が盛りだくさんです。
ぜひ、ご覧ください！

大学の
最新情報を
発信！！



Facebook

島根大学の「今」を広く皆さんにお知らせしています。

ここから
Check!



Twitter

島根大学の最新ニュースや日々の
できごとについて呟いています。

ここから
Check!



Instagram

大学の広報活動をサポートする
「学生広報サポーター」が、学生目
線で大学の魅力を紹介しています。

ここから
Check!



LINE

高校生・受験生・地域の方々に役
立つ情報を定期的にお届けします。

友達追加!



YouTube

リアルな大学生活を、学生や教員
の声を通じて発信しています。

ここから
Check!



島大をもっと
深く知るなら...

Web
サイトへ! >>>

